



CQM(超短期経済予測モデル)

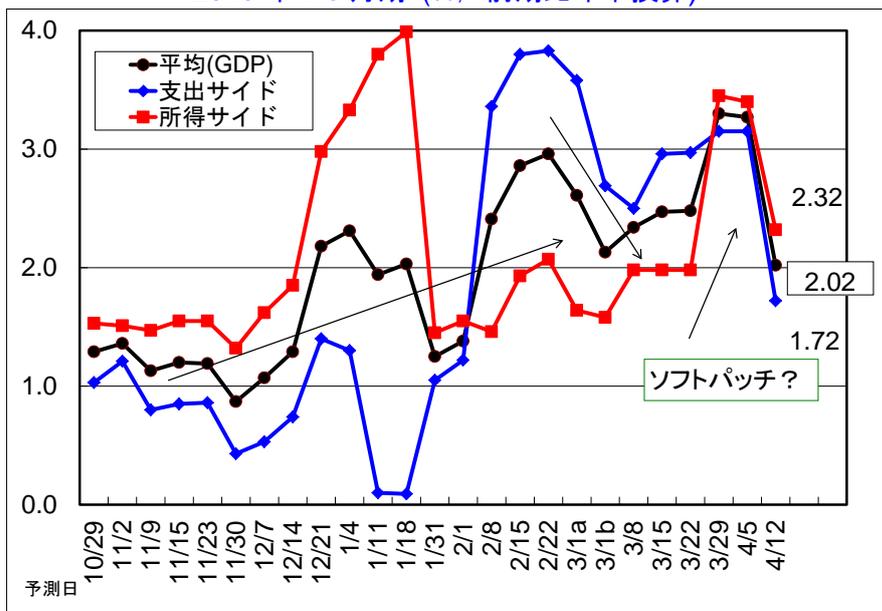
熊坂侑三 (APIR リサーチリーダー, ITエコノミーCEO)
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:kumasaka@iteconomy.com

米国経済(週次)予測(2013年4月12日)

ポイント

- ▶2013年1-3月期の経済成長率は大きく下方修正され、景気は3月にソフトパッチに陥ったと思われる(図表)。
- ▶3月のFOMCミーティングの議事録において、出口戦略が議論されたが、このソフトパッチで出口戦略への移行はかなり遠のいた。
- ▶しかし、2%~3%の経済成長率の下で、“金融の安定化”、“長期債の市場機能”、“物価安定”に弊害をもたらす可能性のある異常なゼロ金利政策を維持する必要性はないだろう。
- ▶まして、財政政策が景気刺激策としての自由度を失いつつある時、金融政策は将来のリセッションにすぐに対応できるようにできるだけ早く出口戦略を開始し、正常な金融政策の状態に戻るべきであろう。
- ▶3月の失業率の低下も労働参加率の低下による。

CQM 予測の動態：実質 GDP 成長率
2013年1-3月期 (%、前期比年率換算)



大きく下方修正された2013年1-3月期の経済成長率、遠のく出口戦略への移行

4月12日のCQMは2月の企業在庫、自動車在庫、3月の輸出入価格、小売販売、生産者物価指数を更新した。今週のCQMは2013年1-3月期(Q1)の実質GDP伸び率を支出サイドでは3.15%から1.72%へ、所得サイドでは3.40%から2.32%へとそれぞれ大幅に下方修正した(図表)。両サイドからの平均実質GDP伸び率は3.27%から2.02%へと1.25%ポイント下方に修正された。

今週の大幅な経済成長率の下方修正がSequestrationの影響が消費者にまで現れたのか、単なる3月の悪天候によるものかわまだ分からない。しかし、多くのエコノミストが1-3月期の経済成長率を大きく下方に修正するだろう。

4月9日に発表された3月19日~20日のFOMC議事録によれば、毎月850億ドルの長期国債・MBSの購入を終わらせる動きもみられたが、今もって連銀エコノミストの考え方はバラバラである。すぐにでも長期国債・MBS購入を止めるべきと主張するカンザス・シティ連銀のEsther George 総裁から、インフレ率が連銀目標の2%以下ならば失業率が連銀目標値(6.5%)になるまで長期国債・MBS購入を続けるべきと主張するボストン連銀のEric Rosengren 総裁までいる。3月の失業率が0.1%低下し7.6%になったが、これは労働参加率の低下によるものであり、金融緩和政策によるものではない。しかし、理由がどうであれ、景気が3月に入りソフトパッチ状況になった今、再び出口戦略への移行は遠のいたといえる。

金融政策を考える時、2%~3%の経済成長率の下で、“金融の安定化”、“長期債の市場機能”、“物価安定”に弊害をもたらす可能性のある異常なゼロ金利政策を維持する必要性はないだろう。まして、財政政策に景気を刺激すべき自由度がなくなっている今、将来のリセッションに対応できるように連銀はすぐにでも出口戦略を始め、すこしでも正常な金融政策の状態に戻るべきだろう。

・本レポートは執筆者が情報提供を目的として作成したものであり、当研究所の見解を示すものではありません。
 ・当研究所は、本レポートの正確性、完全性を保証するものではありません。また、本レポートの無断転載を禁じます。
 ・お問い合わせ先：一般財団法人アジア太平洋研究所 contact@apir.or.jp 06-6441-0550